

毎日利用者様と関わる中で…

札幌報恩学園 あかしあ 野西圭介

入職して14年が経ちました。初めは戸惑い、悩むことも多くありましたが、利用者様の仕草や笑顔に癒され、先輩方に励まされ一日一日を過ごしています。支援において、こちら側の思いを100%伝えることはとても難しいです。どんなに働きかけても応えてくれないこともあります。人と関わる仕事なので大変なこともあります。その中で少しずつでも変化があれば・・・と思い日々皆さんと関わっています。利用者様は十人十色、そのための支援方法も様々です。また、毎日が新しい出来事との出会いです。例えば、普段何気なく利用者様と接しているときも楽しいのですが、利用者様は様々な場面でお手伝いをしてくれます。その気持ちに対して何とも言えないうれしさを感じます。大変だと思ふことも嬉しいと思ふことも両方がこの仕事のやりがいだと思っています。

入職してから、様々な異動がありました。異動するということはその都度、新しく利用者様と信頼関係の構築をしなければなりません。経験を重ねることでコミュニケーションの方法には様々な方法があることが少しずつわかってきました。これからも利用者様一人ひとりのニーズに対して、きめ細やかに対応できるような質の良いサービスを提供していきたいと思っています。また、一緒に働く職員に対しても広く「目配り」、「気配り」、「心配り」を忘れず、利用者様が楽しく健康に生活できる環境を整えることを意識して支援にあたるのが大事な役割だと思っています。

支援で感じたこと

くるみ寮 小田切 淳

私は現在くるみ寮で働かせていただいておりますが、支援していくうえで『意思決定支援』について考えさせられることが多くあります。くるみ寮の利用者様は質問に対する受け答えができる人が多いですが、本当に質問された内容を理解して受け答えできているのか疑問符がつくことが多くあります。例えば健康診断を受けたくないと言う利用者様がいたら、単純に本人が決めたのだから受けなくても良いのだということにはならないと思います。受けたくないという気持ちを受け止めつつ、理由を探ったり、健康診断を受けなかったらどうなるかということと一緒に考えたり、あの手この手を考えていく中で、『意思決定支援』の大事さとどんな人でも必要な支援なのだと思ふて感じています。

勤務して15年目になりますが、上司や先輩、後輩に助けられてここまで続けられたものと思います。今後も利用者様と一緒に年をとって、一緒に悩みながら支援をしていきたいと思っています。

17年目を迎えて

札幌報恩学園 お日さま 水口こずえ

私が報恩会に入職したころは、まだ旧児童寮でのスタートでした。昭和の雰囲気漂う大部屋があったり、汲み取り式のトイレだったり古さに戸惑うことがありました。それから今の報恩学園に引っ越しをして、1~2人部屋になり、居室やトイレ、お風呂も快適になりましたが、時折古いからこそみんなの顔が常に見えていたのかなと懐かしく思うこともありました。17年前は、自分自身まだ体力もあり、利用者様も元気な方が多かったのですが、10年ひとむかしと言うなか、ふたむかしめ後半となり、お互いに体力も落ち、疲れを引きずってしまうことも多くなってきました。福祉制度も日々変わり続ける中、働いていても知らないこと、わからないこともあり、少しでも快適な生活を送る手伝いができるように、私自身の知識を向上させていかなくてはと考えています。自分の身体と同様、支援の方にも肉が付き、利用者様に負けない笑顔で今後も働き続けられるよう、若い支援員のパワーを分けてもらいながらがんばって行こうと思います。



野西 圭介



小田切 淳

-3-



水口 こずえ

